

[12_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
12(2)

<https://doi.org/10.15017/18299>

出版情報 : 図書館情報. 12 (2), pp.9-16, 1976-06-30. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

研究図書館の前進

松本達郎

九州大学の中央図書館の新館ができてから3年あまりたった。建物が新しく立ったということは、図書の入れものが新しくなったというだけではなく、機能的にも新しくなっていなければならない。中央図書館の新築間もないころ、新しい活動目標の一つとして、研究図書館の機能を果たしたいということがととりあげられた。そのレールを敷くのに並々ならぬ努力をされた鳥山隆三先生は当時の経緯と感想を、図書館情報10巻5号(1974・5)に掲載されている。その後2年ほどたった今もう一度この問題を中心に反省しながら、将来を考えてみたい。もとよりこれは、図書館業務にはずぶの素人で経験の浅い後任者の小文であるが、事実の記録も兼ねて所感を述べ参考に供したい。

新しい中央図書館には、理学部と農学部で図書も収められていることは周知のとおりであるが、両者が単に引越したというだけでなく、九大中央図書館が研究図書館として、全学的に機能したいという方向での、具体的な一歩が踏み出されている。事実図書の利用状況を見ると、両学部の研究者が互いに利用し合うだけでなく、工学部・教養部・諸研究所など他部局の研究者も、かなりの頻度でその図書を規則に従い活用している。学問が専門化する一方、境界領域の開発や学際研究のさかんになっていく情勢の中において、これは当然な傾向であるし、大局的にみて、学問の進歩のために好ましいことである。知識は万人に共有のものであり、図書の本来具えている公共性が活かされていると考えれば、よろこばしいことである。

このような方向に対応する事務処理を、便宜上「理農一本化」といつているようだが、この用語は何か中央統制的な響きがあって、研究者には必ずしも好ましい感じを与えないおそれがあるから、「研究図書館への対応」とでもいった方が妥当なのかもしれない。

この対応の一環として、理農両学部で購入している外国雑誌の重複調整が実施された。共有の概念からすれば、利用度の非常に頻繁な場合の例外を除き、一般には重複購入はやめるべきである。経費的には、これにより浮く費用は両学部の間でもかなり大きく、全学的にはきわめて大きいと大きく。浮いた費用は新規購入へなりと廻すことができ、図書館はいっそう充実する。このような簡明なことでも、いざ具体化となると、総論賛成・各論反対的な議論が勝ちであったが、両学部の運営委員会の度重なる努力と各教室研究者の理解によって、この1・2年の間にかかなりの程度まで実現されたのは喜ばしい前進である。この場合経費は原則的に重複省略の総和が両学部でほぼ等価になるよう配慮され、いずれの学部がどの雑誌の費用を負担するかは、話し合いによったのは申すまでもない。さらに上記の当然の帰結として、新着雑誌の配架は、学科別をやめ、さらに理農別をやめて、一貫したアルファベット順になった。配架替えの当初は、利用者にくらか戸惑いの感を与えるかもしれないが、馴れば大した変化ではなく、有益な面も少なくない。但し折角馴れたころまた変更というようなことはさけるべきである。事務面では、限られた定員でやる仕事の簡素化・能率化となることは明らかな利点である。書庫内の配架は従来と殆ど変りないから、ドラスティックなことをやっているわけではない。

このように形の上でも利用の上でも公共性・共有性の高くなってきた中央図書館中の雑誌を、理農両学部で各学科の研究費をさいて購入しているというのはいささか不合理で、将来は何かの共通経費が紐付きで来てよいように考える。これは経費上の一面に過ぎないが、中央図書館と理・農図書室の協調は、いろいろな面で大切であり、これにより事務の能率化と図書館機能の向上がはからなければならない。

私は最近カナダのブリティッシュ・コロンビア大学の図書館を訪れる機会を得たが、中央、医学、教養・学習の3図書館が分れて機能していることは九大と似ているが、中央図書館はよく一元化しており、広い学園内に分散する各教室には図書室は置かず、やや広い閲覧室を各々持っていて、そこへ一定期間だけ必要な雑誌や特殊な図書だけを借り出して来ているという組織になっていた。その他にも学ぶべき点が多いが、図書の公共性・共有性が尊重され活用されている実例は、われわれの将来の前進に対してもよい参考となると感じ、勇気づけられた次第である。

(まつもと・たつろう：元理学部図書運営委員長)

資料紹介

ベザリウスの人体解剖学書

—医学部分館所蔵—

福 永 寿 夫



本学附属図書館医学分館に所蔵する貴重資料の中には、稀覯書として国際的にも充分評価され得るものが数点ある。その中でも珠玉級に価するものといえば、まず次のものが紹介できよう。

Vesalius, Andreas, 1514-1565.

De Humani corporis fabrica Libri septem. [2. ed.]
Basileae, [1555] 824 p. illus. 42 cm.

原著ベザリウスについては、西洋人名辞典、世界人名辞典、また、西洋医学史などにおいてもれなく紹介され、あまりにも有名で今更の感がないでもないが、再度、要約すれば、彼はドイツ系オランダ人で、ベルギー（ブリュッセル）生れの解剖学者であると同時に外科医でもあった。当時の GALENOS, 129頃-200（ヒポクラテス以降およそ700年、ギリシャ医学はガレーノスに至って再興の気運に再会したといわれる）学説の誤謬を指摘し、人体解剖学では中興の祖といわれた。1537—47年、彼はパドヴァ大学（イタリア）の解剖学および外科学の教授であった。この間の1543年に不朽の大著「人体解剖学」“De Humani corporis fabrica”（初版）と「人体解剖学綱要」

“Suorum de fabrica corporis humani bibrodum epitome” が出版された。その後1546年パドヴァ大学の教職を門人に譲り、カール五世の侍医を任ぜられ、宮廷生活に入ってから「人体解剖学」第2版増補発行の準備をした。完成されたのが、1555年であった。すなわち、紹介資料がそれである。

紹介資料「第2版」は労働科学研究所図書館所有のものと合せて、日本ではわずか二冊だとされている。続いて原著に関連ある医学分館所蔵の訳本をここに紹介しておく。

Vesalius, Andreas, 1514-1565.

Anatomische Erklärung der Original-Figuren von Andreas Vesal, samt einer Anwendung der winslowischen Zergliederungslehre in sieben Büchern, übers. von Heinrich Palmaz Leveling. Ingolstadt, Anton Attenkhauer, 1783, xvi, 336 p. 40×27 cm.

は、原著初版（1543）の独訳本である。また
Vesalius, Andreas, 1514-1565.

Anatomie, Ofte Af-beeldinghe van de deelen des menschelijcken lichaems, en derselver verkiaringhe.... Amsterdam, Cornelis Danckertz. 1647, 196 p. illus. 25 plates. 23×18 cm.

江戸時代（前期）、各藩で蘭方医育成のためテキストとしてオランダ語訳本が使用されていたが、上記医学分館所蔵の同一原著のオランダ語訳本は、当時の出雲藩の所蔵印がおされているもので、日本でこれまでに発見されたものの中では、最古だろうと言われている。これ等三点の貴重書は、その陳列ケースを、人の目に余りふれにくかった資料展示室から、二階閲覧室の参考コーナーの一角に展示している。なお、希望者には、マイクロフィッシュによるサービスを行なっている。

（ふくなが・としお：医学分館目録掛長）

CASSI (Chemical Abstracts Service Source Index) 1907-1974

Cumulative and Quarterly Supplements

—中央図書館所蔵—

末次 驍

この資料は、先にこの情報 (Vol. 6, No. 1, 1970) で紹介した ACCESS; key to the source literature of the chemical sciences, 1969 の改訂版で、1970年に CASSI と改名し年4回補遺版を発行しています。

CASSI 1907-1974 Cumulative は、化学に関する一次資料の書誌的データと所蔵館の情報を集積したものです。収録範囲は、1907年 CAS 創設以来 CA に収録された primary journals, patents, technical reports, edited monographs と conference proceedings および 1830-1940年までの Chemisches Zentralblatt や1965年までの Beilsteins Handbuch der organischen Chemie に収録されたものも含んでいます。

CASSI 1907-1974 Cumulative には、53,500以上の項目があり、省略誌名のアルファベット順に配列されています。そのおのおの項目は、出版物のフルタイトル、ISO (International Organization for Standardization) による省略誌名、ASTM (American Society for Testing and Materials) CODEN、誌名の変遷などの歴史、発行頻度、使用言語、出版社名又は販売代理店名およびその住所などの書誌的データから構成され、これに加えて CAS (Chemical Abstracts Service)、BIOSIS (BioSciences Information Service of Biological Abstracts)、EIX (Engineering Index, Inc.)、ISI (Institute for Scientific Information) が行なう二次資料サービスのデータベースに含まれるか否かなどについても記載されています。

所蔵館の情報は、世界の398館 (うち USA 326館、その他27カ国72館) の所蔵目録になっており、日本は、国立国会図書館 (JpTN) と日本科学技術情報センター (JpTJ) の2機関がはっています。目的の文献が自館にない場合は、これらの図書館からコピーサービスを受けることができるよう、そのためのアドレスも記載されています。

CASSI には CA に収録される頻度の高い1,000タイトルの雑誌が、省略誌名でアルファベット順とランク順にリストされており、これらは、化学関係文献の収集選定などに利用できます。

又 CASSI Quarterly Supplements は年4回 (No. 1-3 と No. 4 で No. 4 には No. 1-3 のものが累積される) 発行されます。これは、Current Serial, Changed Title Serial, Discontinued Serial など約5,000の項目からなっています。

以上が、CASSI 1907-1974 Cumulative および Quarterly Supplements の概要です。文献調査はもちろん、論文執筆の際、参考文献の省略誌名の表わし方などに参照されたいに役立ててください。

CASSI 1907-1974 Cumulative edition 全2冊は、当館の二次資料コーナーに配架しています。

Journal of Biochemical and Microbiological Technology and Engineering.
JMTAL. In Eng. Eng. sum. [Occas pap in Ger.] v1 n1 F, 1959-v3 n4 D, 1961.

JOURNAL OF BIOCHEMICAL AND MICROBIOLOGICAL TECHNOLOGY AND ENGINEERING.
LONDON. Changed to Biotechnol. Bioeng., which see.

See Serv: CAS
AAP; ARAb; ATU-M 1960; APTa; AsU; CLS; CLSU-M; CLU; CPT; CS-L; CU; CU-A; CU-M; CU-S; CoFS; CoH; CoU-M; CU; Ciy-M; DLC; DeU; DeWDL 1960-1961; FTAStU; FU; GAT; GU; HU; IArg; IC; ICaB; IEN; IEN-M; INeA; JU; IaAS; IaU; IDU; InLP; InU; InU-M; KU; KU-M 1959-1960; MMeT; MCM; MWHB; MdEdgA; Mdu; MdU-E; MdW; MdW-M; MxUP; MxMd; MxU; MxU-A; MoKz; MoRM; MoU; MfC; MfA; NAIU; NBPo; NfC; NN; NNCC; NRU; NSU; NfPB; NfU; NfU-M; NfD; NeRS; NeU-H; NdU; Nhd; NfNB; NfRAH; NfL; OCIC; OCo; OTU; OU; Oks; OKU; OrCS; OrU-M; PBL; PEL; PPC; PPD; PPE; PPPCP; PPM; PPH; PSt; PU; RU 1961; SeCleU; SeU; Tz; TzBa; TzCM 1960-1961; TzDN; TzHB; TzHU; TzLT; TzU; VIBBy; VU-M; VU; VU-Med; WU-A; WaPS; WaU; AuMU; AuSU; BeBB; BzP; BzSU-P; CaMWU; CaOKQ; CaOLU; CaOAg; CaOD; CaPS 1959; FzPU; FzPU-OS 1959; GBLc; GBLN; GbLS; GzGIC; HuBM; IRR; JpTJ 1960-1961; JpTN; MxMC 1961; NoTN; RuLA; SaPS; SvSK; SvSKM; SzZE

Journal of Biochemistry (Tokyo). JOBIAO. In Eng. Eng. sum. v1 Ja, 1922-v36 1944; v37 1950+. [Susp 1944-49.] n [v] 74 1973. Nippon Seikagakkai 40 Japan Academic Societies Center, Yayoi 2-4-16, Bunkyo-ku, Tokyo 113.

Journal of Biological Chemistry. JBCHA3. In Eng. Eng. sum. v1 Oc, 1905+.

[1907-1977 included Proceedings of the American Society of Biological Chemists.] sm 248 1973. American Society of Biological Chemists, Inc., 428 E Preston St, Baltimore, Md 21202.

JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY. BALTIMORE.
See Serv: BIO. CAS. ISI

AAP; ABSR; ATVA 1938+; AU-M; AKRF 1941+; AKU 1923-1928, 1948-1949, 1958+; ArU; ArU-M; AzTeS; AzU; C 1922+; CL 1925+; CLSU 1921+; CLSU-M; CLU; CLU-M; CMeSR 1948+; CPT; CPH 1923+; Csd 1962-1963; CSF 1963+; CSC; CSU-L; CU-SR 1934+; CU-CU-A; CU-I 1905-1916, 1918+; CU-M; CU-Riv 1967+; CU-RivA; CU-RivP 1967+; CU-S; CU-SC 1940+; CoD 1952+; CoFS; Col; Col-M; CU; CUW; Ciy-KS; Ciy-M; DBS 1920+; DGU; DfC; DNAL; DNAS-NAE 1949+; DNLM; DP 1915+; DaU; DeWDM 1914-1957; DeWDL; DeWH 1923+; FMU 1905-1936, 1938+; FMU-M; FTAStU; FU; GAT; GEU-M; GLagCM 1905-1956; GU; HHS; HU; IArg; ICAI; ICI 1920+; ICI; ICL 1940+; ICL-M; ICSC 1906+; ICaB 1914+; IEN; IEN-M; INeA; IU; IU-M; Ia-M; IaAS; IaU; IDU; InU; InU-P; InU-M; KMR; KU; KU-M; KzLoU 1916-1932, 1967+; KzLoL-IR; KyU; KyU-AS; KyU-M; LNHT; LNT-M; LU; MB 1965+; MfC; MfA; MfP 1922+; MEU-M; MCM; MfC; MfOWT 1905-1925, 1929-1933, 1959+; MMeT; MNS; MWC; MWP 1966+; MWHB; MWH; MdBE; MdEdgA; MdU; MdU-C 1919+; MeU; MdW; MdW-M; MKP; MfM; MfU; MfM; MfS; MfU 1933+; MfU-A; MfU-B; MoKz; MoRM 1961+; Mof 1924+; MoSU-M; MoSW; MoU; MoSN 1905-1916, 1920-1936, 1938+; MfC; MU; N; NAIU 1967-1971; NB; NBM; NBP 1967+; NBPo; NBSU; NBU 1905-1921, 1949+; NBUA; NBUrP; NBUU 1967+; NCoRM 1966+; NCoA 1946+; NfC; NN; NNCC; NNNAM;

(すえつく・たけし: 中央図書館閲覧掛)

利用の窓

中央図書館利用方法の一部変更

中央図書館では、昭和48年4月、新館開館以来3年間にわたって利用者の流れ方など利用実態調査を行なって来ました。今後もより効率的に図書館を利用していただくため、これら調査結果に基づいて、来たる7月12日(月)から利用動線の修正を実施することになりました。利用方法変更の概略は次のとおりです。

1. **インフォメーションデスクの新設** メインロビーの玄関口近くに館内全般にわたる利用の案内、入退館者のチェックおよび持込冊数札の交付・回収などを行なうインフォメーションデスクを新設します。入館のときは、「入館券」をこのデスクで提示して下さい。持込む図書については、冊数を確認したうえで「冊数札」を交付します。(返却するために持込む図書については、冊数札の交付はいたしません) 退館のときは、図書と冊数札(入館後借出した図書については、別途冊数札の交付をします)の確認をうけて下さい。時間外開館のときは、貸出、返却、更新、予約等の業務すべてをこのデスクで行ないます。
2. **新聞閲覧コーナーの移設** 新聞閲覧台は、メインロビーに移し、2日分を展示閲覧に供しています。それ以前の新聞は、書庫第2層にある新聞閲覧コーナーで利用して下さい。
3. **自由閲覧室の利用** 夏季作業中に限って、本学利用者を優先するという建前から入館規制を行ないます。従ってこの期間中、自由閲覧室を利用する場合、入館券の提示が必要となります。詳細については、利用動線を図示した掲示を参照して下さい。なお、不明のことについては、掛員にお尋ね下さい。

新着雑誌の配架替

中央図書館研究者閲覧室にある新着雑誌は、これまで、理学部、農学部別々に配架していましたが、1975年版から、両学部間の重複調整が進められてきたため、1976年版から、一元配架をすることとし、6月1日配架替を行ないました。

配架に際しては、① 理学部購入誌はピンク色のラベル、農学部購入誌はライトブルー色のラベルで表示しています。② 配列は、洋雑誌(国内で刊行されている欧文誌を含む)と和雑誌に分け、それぞれの誌名のABC順をとっています。③ 洋雑誌名の表示は“Chemical Abstracts”に採用されている略名を準用しています。④ ロシア語の雑誌は、洋雑誌の最後尾部に、ロシア文字順に配列しています。⑤ 数学関係の雑誌の大半は、理学部本館四階の数学雑誌室に展示されています。⑥ 購入以外の雑誌、すなわち、寄贈・交換の形で受入れている雑誌は、書庫第二層、BブロックかCブロックに配架しています。なお、新刊雑誌は、貸出しいたしませんのでご留意下さい。

◆ 会 議

第49次国立七大学附属図書館協議会

〈とき：昭和51年2月19～20日 ところ：東京、弥生会館〉

この協議会は例年秋季に開催されていたが、第3回日米大学図書館会議のために延期され、本年度は東京大学を当番館として開催された。

第1日目は部課長会議で次の協議題が討議された。

- (1) British Library, Lending Div. 等への文献複写申し込みについて(北大)
- (2) 外国雑誌の価格について(北大)
- (3) 外国雑誌(前金・後金共)の値引交渉の統一化について(東北大)
- (4) 学生用図書の予算と運用について(東北大、阪大)
- (5) 毎年度七大学で受入れた図書館学関係図書の目録カード交換とその総合目録について(名大)
- (6) 「学術雑誌総合目録 人文科学欧文編」の刊行などについて(東大)

第2日目の本会議には、文部省情報図書館課から吉川課長および雨森大学図書館係長の出席を得て次の協議題が審議された。

- (1) 相互協力体制における地区の中心館としての役割とその拡充について(東北大)
- (2) 大型コレクションの購入について(名大)
- (3) 定員削減と図書館業務のあり方について(京大)
- (4) 中央図書館の蔵書構成はいかにあるべきか(京大)

この協議会には、本館から田中館長、長尾部長及び本多整理課長補佐が出席した。

第6回九州地区国立大学図書館協議会

〈とき：昭和51年4月22日 ところ：那覇市ゆうな荘（地方職員共済組合那覇宿泊所）〉

この協議会が沖縄で開かれるのは今回が初めてであり、12大学から25名参加のもとに次の協議題が討議された。

- (1) 外国学術雑誌の確保のための予算措置について（九大，九州芸工大）
- (2) 「大学の研究・教育に対する図書館の在り方とその改革について」第2次報告—国立大学協会—に如何に対処すべきか（鹿大）
- (3) 図書館職員の増員について（宮崎医大）
- (4) 課長（事務長）補佐の新増設について（宮崎医大）
- (5) 指定図書購入費予算の復活について（宮崎大）

討議の結果、「外国学術雑誌の確保のための予算措置について」を6月4・5日に開催予定の第23回全国国立大学図書館協議会に九州地区の協議題として提出することを決定した。

なお、新役員館として、連絡館に九州大学、理事館に九州大学、琉球大学、来年度の当番館に九州大学を選出した。

この協議会には、本館から田中館長、長尾部長及び本多整理課長補佐が出席した。

第27回九州地区大学図書館協議会

〈とき：昭和51年4月23日 ところ：那覇市ゆうな荘〉

国立大学図書館協議会に続いて国公立の本協議会が加盟36館、53名の参加の下に開かれた。まず、昭和50年度の決算報告及び監査報告の後、会費等の値上げについて諮られ、昭和51年度から会費4,000円、会誌700円に改訂することが決定した。続いて新年度の予算案を審議し、その後次の協議題について討議した。

- (1) 「学術雑誌総合目録 人文科学欧文編」の刊行計画について（九大）
- (2) 大学図書館のネットワークの具体化について（鹿大）

あと、永年勤続者及び功労者の表彰を行った。

午後は、パネル討議に「大学図書館建築について—実例を中心として—」を研究題目としてとりあげ、九州大学長尾事務部長を座長に、長崎大学安田事務長、熊本大学山口事務長、大分大学矢野事務長の三氏が各館の実状を発表し、問題点について熱心な討議が行なわれた。

新役員館として幹事館・当番館に九州大学、監査館に九州産業大学、ほか表彰委員館国公立各2館を選出した。

本館からは、田中館長、長尾事務部長及び本多整理課長補佐が出席した。

なお、永年勤続者として、本学から原邦子司書（医学分館）が表彰された。

第24回九州地区医学図書館協議会総会

〈とき：昭和51年5月7日 ところ：熊本郵便貯金会館〉

本年度は、熊本大学を当番館として開催され、加盟9館の館長、主任司書19名が、本学から後藤分館長、朝倉、福永の両掛長が参加した。

協議題として今秋、鹿児島大学で開催予定の第47回日本医学図書館協会総会に対する地区加盟館の協力体制について具体的な協議が行なわれ、続いて九州地区医学情報センター（仮称）の設置について熱心な協議が行なわれた。

なお承合事項として、1.製薬会社からの文献複写申込に対するサービスについて 2.雑誌の管理状況について 3.雑誌（特に外国雑誌）の欠号補充について 4.夜間開館の実施状況について意見の交換がなされた。

レファレンス・コーナー (その33)

— 中央図書館情報資料掛 —

中央図書館の情報資料掛(電・5310・5317)では、利用者の方々から寄せられてくるいろいろな質問事項の調査を行なっていますが、ごく最近にあった質問のなかから幾つかを、ご参考のためにここへ挙げてみることにします。

質問1 九大が帝国大学といわれていたころ「春日政治」という人がいたが、その人の業績及び在籍期間を知りたい。

回答例 「九大五十年史」(194キ7)に恰好の説明文があったので、複写して送付。大正15年に奈良女子高等師範学校教授から本学に転任。京都大学出身。専門は国語・国文学。博士号論文は昭和11年「仮名の発達より観たる国語文体の成立」。著作多数。昭和13年退官。

質問2 論文中に「Halliday の systemaic grammar によれば…」と引用されているこの原著を入手したい。

回答例 各国の研究者名鑑の中から、Directory of British scientists (761 D 2)で「Categories of the theory of grammar」(1961)などの著作がある Halliday, Michael Alexander Kirkwood が該当著者であると思われた。ISI's who is publishing in science (403.5 I 84)で、住所は次の通り。Halliday M A K, Univ British Columbia, Vancouver B C, Canada. この場合、論文著者に直接コピー依頼を申しこむ方法を紹介した。

質問3 熟語の字を逆排列した辞典、および英語の単語のスペルを逆排列した辞典を教えてほしい。

回答例 一例として次の2点を紹介した。服部宇之吉、小柳司気太共著の「詳解漢和大辞典」(512シ30)に、熟字の韻脚排列を掲出している。また後者に相当するものとしては、郡司利男著の「英語学習逆引辞典」があるが、本学には所蔵していない。

質問4 文化～天保年間、日田代官だった塩谷大四郎について知りたい。

回答例 図書館の郷土資料および個人伝記にあたる図書分類番号は、旧分類では680-九州郷土資料、651-日本人伝記。新分類(NDC)では219.5-歴史・九州地方・大分県、289.1-伝記(日本人)に当り、その項を調べたが、適当な資料がなかった。

「大分県立大分図書館所蔵郷土資料目録」(010オ54)

を調べて、豊西史談会編「塩谷大四郎」(豊西史談第10・11号合冊)、熊野御堂、末次郎著「塩谷事歴」の2点を見出したので、大分県立図書館を利用するよう案内した。

質問5 「以下」ということばに対して「未満」ということばがあるが、「以上」ということばに対して使われることばは何か。

回答例 「法令用語小辞典」(320.3H87)によって回答。数量的限定をする場合、「以上」ということばが基準点を含むに対して、「こ(超)える」は基準点を含まない時に用いられる。

質問6 メタセコイア (Metasequoia)は、三木茂が化石を規準標本として命名した(1941)スギ科の新属植物であるが、発表した原論文の掲載誌名、論文名(1)。その後中国四川省で胡先驌・鄭万均が生きている化石として Metasequoia glyptostroboides Hu et Cheng (1945)を発見した。この学名をつけた Hu et Cheng と発見者は同一人物か(2)。そして1946-1947年にアメリカ探検隊によって約100本の生存が再確認されたが、この探検隊の報告論文の掲載誌と論文名(3)を知りたい。

回答例 (1) Biological abstracts, 1951で「On the change of flora in Eastern Asia since Tertiary Period (1) The clay of lignite beds flora in Japan with special reference to the Pinus trifolia beds in Central Hondo.」Jap. J. Botany. 11(3) 237-304(1941). 農学部所蔵。

(2) 平凡社「世界大百科事典」30巻118頁「メタセコイア」の項で胡先驌・鄭万均と Hu et Cheng は同一人物であることが確認される。

(3) Biological abstracts, 1954で Gressitt, J.L. (California Acad. Sci., Pasadena) 「The California Academy-Lingnan dawn redwood expedition.」Proc. California Acad. Sci. ser. 4, 28. p. 25-58 (1953) 農学部所蔵。

◆ 研 修 ・ 研 修 報 告

BIOSIS ワークショップ

“Biological Abstracts”や“BioResearch Index”などで有名な機関 BIOSIS (BioScience Information Service of Biological Abstracts) から Mr. Elias (Information Scientist, BA) を迎えて、去る4月20日(火)13時30分から約3時間、中央図書館視聴覚室において、研究者及び図書館職員を対象として、① BIOSIS の組織 ② BIOSIS の生物学分野における役割 ③ BIOSIS編成の流れ ④ 対象文献の選択基準及び基本方針 ⑤ Previews Data Base のファイル構成 ⑥ On-Line・Off-Line による情報検索及び質問式の作成、などについてのワークショップを持った。

今後、より効果的な文献検索を行なっていくためには、個々の二次資料についての知識に加えて、このような機関の組織、活動状況などについても深い関心をもっていくことが必要であろう。

本学教官著作寄贈図書

<中央図書館>

春日 和男 (文学部教授)

説話の語文 - 古代説話文の研究 -

昭50 桜楓社 ¥3,000

春日 和男 (文学部教授)

説話の語文 - 日本霊異記漢字索引 -

昭50 桜楓社 ¥4,800

森本 芳樹 (経済学部助教授)

中世の世界 (L. ジェニコ著, 森本芳樹訳)

昭51 創文社 ¥5,500

内田 一郎 (工学部教授)

新編 道路舗装の設計法

昭51 森北出版 ¥3,000

国武 豊喜 (工学部教授)

生物有機化学

昭51 講談社 ¥2,800

<農学部図書室>

田代 隆 (農学部教授)

現代日本資本主義における農業問題

田代隆, 花田仁伍編

昭51 御茶の水書房 ¥4,300

附属図書館商議委員会委員名簿 (51.6.30現在)

委員長	館長	田中武英
委員 (文)	教授	松田伊作
“ (”)	“	今井源衛
“ (育)	“	遠藤辰雄
“ (”)	“	岩井龍也
“ (法)	“	海原文雄
“ (”)	“	近藤昭三
“ (経)	“	秀村選三
“ (”)	“	服部俊治
“ (理)	“	清水博
“ (”)	“	工藤昭夫
“ (医)	“	後藤昌義
“ (”)	“	遠藤英也

“ (齒)	“	勝田信夫
“ (”)	“	高濱靖英
“ (薬)	“	川崎敏男
“ (”)	“	大倉洋甫
“ (工)	“	江口鉄男
“ (”)	“	田町常夫
“ (農)	“	鮎沢啓夫
“ (”)	“	土屋圭造
“ (養)	“	三上正利
“ (”)	“	浦田英夫
“ (産)	“	中楯興
“ (生)	“	竹下 斎

人事異動

附属図書館教養部分館長の異動

51. 4. 1 三上 正利(教養部教授)西原忠毅分館長の後任

図書系職員の異動

51. 4. 1 菱輪 武(整理課長)東京大学総合図書館総務課長に配置換
 " 楠松 良雄(鹿児島大学附属図書館整理課長)整理課長に配置換
 " 岡 博満(整理課目録掛長)九州芸術工科大学整理係長に外向
 " 長 和栄(閲覧課情報資料掛長)整理課目録掛長に配置換
 " 重松多喜造(理学部図書掛長)閲覧課情報資料掛長に配置換
 " 岸本 澄夫(九州芸術工科大学附属図書館運用係長)理学部図書掛長に転任
 " 堺 弘(教養部分館受入目録掛長)経済学部図書掛長に配置換
 " 平川 友視(農学部図書掛長)教養部分館受入目録掛長に配置換
 " 友納 昭二(経済学部図書掛長)農学部図書掛長に配置換
 " 竹井 直子(経済学部図書掛)工学部応用

化学系図書室に配置換

- " 江越 典子(工学部応用化学系図書室)工学部応用化学科に配置換
 " 今村ひとみ 工学部機械系図書室に採用
 51. 5. 1 桑野 貢(整理課庶務掛長)学生部厚生課奨学掛長に配置換
 " 石川 定典(有明高等専門学校人事係長)整理課庶務掛長に転任
 51. 5.16 古賀 鉄夫(教養部分館受入目録掛)理学部図書掛に配置換
 " 井出 公東(文学部図書掛)教養部分館受入目録掛に配置換
 " 永利 常子(理学部図書掛)経済学部図書掛に配置換
 51. 6. 1 前沢 宏信(整理課会計掛)農学部經理掛に配置換
 " 中島 敏子(医学部分館受入掛)医学部動物実験施設に配置換
 " 青木 智世(医学分館受入掛)採用
 " 森 一夫(教養部分館受入目録掛)教養部用度掛に配置換
 " 井上久美子(教養部分館閲覧掛)教養部分館受入目録掛に配置換
 " 八尋多恵子(教養部分館閲覧掛)教養部分館受入目録掛に配置換
 " 豊福 房代(教養部分館受入目録掛)教養部分館閲覧掛に配置換

目録

会議等

4. 5~10 会計実地検査
 " 12 昭和51年度時間外開館開始
 " 14~16 大学図書館改善調査研究班 第13回会議,
 大学図書館基本問題特別委員会, 岸本奨励賞受賞者選考委員会 於東大
 " 19 BIOSIS WORKSHOP
 " 22 九州地区国立大学図書館協議会 於琉大
 " 23 九州地区大学図書館協議会 於琉大
 " 26 消防査察
 5.13 第107回附属図書館商議委員会
 " 20~21 大学図書館改善調査研究班 第14回会議,
 第2回大学図書館基本問題特別委員会, 岸本奨

励賞受賞者選考委員会 於東大

- " 27 福岡県・佐賀県大学図書館協議会 於久留米大
 " 29 西日本図書館学会 於九大
 6. 4 図書館情報編集委員会
 " 10 "
 6.16 全学図書系掛長研修会

来館者

4. 6~9 東京大学総合図書館 菱輪総務課長
 " 8 緒方研究所 緒方所長
 " 21 鹿児島大学附属図書館黒住事務部長
 5.21 東京都立大学附属図書館 椽川館長, 奈良県立医科大学附属図書館 吉本次長, 竹村司書
 6. 9 北九州市立美術館 庶務係長
 6.11 福岡女子大学 坂井学長
 " 26 ハワイ大学 鈴木教授夫妻

編集委員 主査・岩井 昭三 委員・八尋 重久, 重松多喜造(中央図書館), 福永 寿夫(医学分館), 中野 周行(教養部分館), 西嶋 武(文), 岸本 澄夫(理)

九州大学附属図書館報「図書館情報」Vol. 12, No. 2 (通巻103号)

1976年6月30日発行・発行人 長尾 公司

発行所 九州大学附属図書館・福岡市東区箱崎6丁目10番1号・〒811②・電話代表(641)1101 内線5301